

(1) 施策の外部評価の結果 【第4回】

基本政策	人がつながり未来を拓く学び合うまちづくり
施策展開の方向	いつまでも学び生きがいがあるまちをつくる
施策	11：学習成果を生かせる生涯学習の推進
目標とする状態	●生涯学習に関する情報を活用し、様々な場所で、様々な世代が交流しながら、誰もが、積極的に学習活動に取り組んでいます。 ●多くの人が日常的にスポーツに親しみ、スポーツの楽しみ・感動を分かち合っています。

施策の達成状況 ：A～D	第1分科会の 評価結果	施策の達成状況に関する各委員の判断理由・意見				
	B 計画どおりの成果 が得られている	<ul style="list-style-type: none"> 目標は達成できている。 生涯学習活動状況の情報提供件数は目標値を大きく上回り、週2回以上スポーツをする人の割合も向上きに推移している。 スポーツをする人の割合も増えていることや生涯学習推進リーダーの育成など一定の成果は出ている。 				
		各委員の評価結果				
		委員	委員	委員	委員	委員
	B	B	B	B	B	
	計画どおりの成果 が得られている	計画どおりの成果 が得られている	計画どおりの成果 が得られている	計画どおりの成果 が得られている	計画どおりの成果 が得られている	
計画事業の構成 に関する評価 ：a～c	第1分科会の 評価結果	事務事業の構成に関する委員の判断理由・意見				
	b 概ね妥当である	<ul style="list-style-type: none"> 遊び場の整備やスポーツイベントの周知などの施策もあった方が良い。 主な事業の目標が達成されている。 生涯学習の推進、スポーツ推進などの事業は良い結果を残しているが、重要度の低さは情報提供のあり方に問題があると思う。 				
		各委員の評価結果				
		委員	委員	委員	委員	委員
	b	b	b	b	b	
	概ね妥当である	概ね妥当である	概ね妥当である	概ね妥当である	概ね妥当である	
市民意識の反映 ：A～C	第1分科会の 評価結果	市民意識の反映に関する委員の判断理由・意見				
	B 概ね反映されている	<ul style="list-style-type: none"> 満足度、重要度ともに低い。誰でもいつでも利用できる健康増進に向けた施設、環境整備が必要ではないか。 満足度は前回調査より上昇しているが、生涯学習活動における情報提供事業のサポートブックの利用が増えておらず、情報として伝わっていないのではないか。 満足度は平均を若干下回り、重要度もだいぶ低い。現在の地域状況や個人の価値観の多様性を考えてみると、本施策が市民に浸透しにくい面を持っているからだと思う。その中でも、徐々に満足度が上がっていることは、少しずつではあるが市民意識の向上が感じられる。 				
		各委員の評価結果				
		委員	委員	委員	委員	委員
	B	C	C	B	B	
	概ね反映されている	反映できていない	反映できていない	概ね反映されている	概ね反映されている	
課題の捉え方 ：A～C	第1分科会の 評価結果	課題の捉え方に関する委員の判断理由・意見				
	B 課題の捉え方に一部 不足が見られる	<ul style="list-style-type: none"> スポーツ、レクリエーションだけでなく、子どもの学習、市民参加（意識啓発）などにも、施策を行った方が良いのではないか。 生涯学習推進リーダーが少ない。また、生涯学習、スポーツレクリエーション活動の普及啓発活動も必要だが、具体性に乏しい。 学習活動支援の推進、地域の活性化が必要。 地域課題の解決や生涯学習の普及から社会教育の充実など、地域を活性化していくための課題の捉え方は良いと思うが、施策の市民への周知や市民が活動しやすい場の提供、市の各部署が連携した生涯学習活動の取組も課題になると思う。 生涯学習や生涯スポーツに対する個人の意識は高まっているので、普及啓発だけでなく若い人への情報提供、学校教育からの継続実施を後押しする恒常的なアイデアがほしい。 				
		各委員の評価結果				
		委員	委員	委員	委員	委員
	A	B	A	B	B	
	課題の捉え方が 的確である	課題の捉え方に一部 不足が見られる	課題の捉え方が 的確である	課題の捉え方に一部 不足が見られる	課題の捉え方に一部 不足が見られる	
施策の方向性 ：A～D	第1分科会の 評価結果	施策の方向性に関する委員の判断理由・意見				
	B 継続実施	<ul style="list-style-type: none"> 市民へのスポーツイベントなどへの周知や啓発なども必要ではないか。 情報提供だけでなく、空き家対策等も含め、人の集まる場所も必要ではないか。 生涯学習や生涯スポーツを通じて、生きがいに満ちた人生を送れるようにすべき。 地域のつながりが希薄になりつつあるからこそ、社会教育活動やスポーツレクリエーションを通してつながりを深めていく必要性を感じる。 生涯学習の継続実施にはそれなりの工夫を要すると思う。 				
		各委員の評価結果				
		委員	委員	委員	委員	委員
	B	B	B	B	A	
	継続実施	継続実施	継続実施	継続実施	拡大して実施	

(1) 施策の外部評価の結果 【第4回】

基本政策	人がつながり未来を拓く学び合うまちづくり
施策展開の方向	いつまでも学び生きがいがあるまちをつくる
施策	12：歴史・文化遺産の継承
目標とする状態	<ul style="list-style-type: none"> ●豊富な文化財がまちづくりに活用され、様々な人が歴史・文化遺産に興味を抱いています。 ●多様な情報発信により、歴史的な魅力が多くの人に伝わり、貴重な文化財を大切に引き継いでいます。

施策の達成状況 ：A～D	第1分科会の 評価結果	施策の達成状況に関する各委員の判断理由・意見				
	B 計画どおりの成果 が得られている	<ul style="list-style-type: none"> ・大山詣りの日本遺産認定や、宝城坊本堂保存修理等は計画達成ができています。また、市民による、歴史や文化にまつわる活発な活動が行われている。 ・歴史や文化財に興味・関心を示す人が増加している。 ・歴史解説アドバイザーが目標値に達していないが、各事業は目標を達成できている。 				
		各委員の評価結果				
		委員	委員	委員	委員	委員
	B 計画どおりの成果 が得られている	A 計画以上の成果が 得られている	B 計画どおりの成果 が得られている	B 計画どおりの成果 が得られている	B 計画どおりの成果 が得られている	
計画事業の構成 に関する評価 ：a～c	第1分科会の 評価結果	事務事業の構成に関する委員の判断理由・意見				
	b 概ね妥当である	<ul style="list-style-type: none"> ・主な事業の目標は達成されており、市民による歴史や文化にまつわる活発な活動が行われている。 ・事業構成について、目標達成状況も良く、今後の方向性も良いが、市民の重要度が反映されていないため、市民の興味関心を引き出す施策もほしい。 				
		各委員の評価結果				
		委員	委員	委員	委員	委員
	b 概ね妥当である	a 適切な構成である	a 適切な構成である	b 概ね妥当である	b 概ね妥当である	
市民意識の反映 ：A～C	第1分科会の 評価結果	市民意識の反映に関する委員の判断理由・意見				
	B 概ね反映されている	<ul style="list-style-type: none"> ・高齢者のふるさつを見つめ直す意識、若者、女性の間での歴史に対する関心事等に対し、情報発信されている。 ・満足度は高いが、重要度が平均よりも低い。若い人には伝わっていないのではないかと考える。 ・自分の住んでいるところを見つめ直す高齢者が増えており、若い世代への情報発信も重要だと思う。 				
		各委員の評価結果				
		委員	委員	委員	委員	委員
	A 反映されている	A 反映されている	B 概ね反映されている	B 概ね反映されている	B 概ね反映されている	
課題の捉え方 ：A～C	第1分科会の 評価結果	課題の捉え方に関する委員の判断理由・意見				
	A 課題の捉え方が 的確である	<ul style="list-style-type: none"> ・大山以外の文化財や伊勢原の歴史についても、伝えていくことが望まれる。 ・歴史文化遺産の継承には、自治会を含む、市民団体等の協力が不可欠である。また、地域・地区に眠っている文化財伝承の掘り起こしを望む。 ・伊勢原の歴史遺産や文化財を次世代に伝えて行くにあたり、市民団体の活動協力が不可欠であり、行政によるサポートも必要不可欠である。 				
		各委員の評価結果				
		委員	委員	委員	委員	委員
	B 課題の捉え方に一部 不足が見られる	A 課題の捉え方が 的確である	A 課題の捉え方が 的確である	A 課題の捉え方が 的確である	A 課題の捉え方が 的確である	
施策の方向性 ：A～D	第1分科会の 評価結果	施策の方向性に関する委員の判断理由・意見				
	B 継続実施	<ul style="list-style-type: none"> ・文化財の保護、継承が必要である。 ・施策の方向性として、日本遺産になったことをもっと全面に押し出した市民へのアピールや啓蒙を考えてほしい。 				
		各委員の評価結果				
		委員	委員	委員	委員	委員
	B 継続実施	B 継続実施	B 継続実施	B 継続実施	B 継続実施	

(1) 施策の外部評価の結果 【第4回】

基本政策	災害に強い安全なまちづくり
施策展開の方向	災害から市民の命を守るまちをつくる
施策	13：みんなで取り組む地域防災力の強化
目標とする状態	<ul style="list-style-type: none"> ●市民一人ひとりが災害時に適切に対応でき、地域ではお互いに助け合っています。 ●災害時に高齢者や障害者が安心して避難生活を送っています。

施策の達成状況 ：A～D	第1分科会の 評価結果	施策の達成状況に関する各委員の判断理由・意見				
	B 計画どおりの成果 が得られている	<ul style="list-style-type: none"> ・施策目標が達成されている。 ・市内一斉に全広域避難所で自主防災会が行う避難訓練の効果は高いと考える。自主防災会の取組強化が必要だと思ふ。 ・防災訓練の達成率が100%達成されている。また、高齢者・障害者のための避難施設の確保も目標値達成されている。 ・自主防災会の訓練などは既に目標を達成しており、その他の指標や事業もほとんど目標値を上回っている。 				
		各委員の評価結果				
		委員	委員	委員	委員	委員
	B 計画どおりの成果 が得られている	B 計画どおりの成果 が得られている	B 計画どおりの成果 が得られている	A 計画以上の成果が 得られている	B 計画どおりの成果 が得られている	
計画事業の構成 に関する評価 ：a～c	第1分科会の 評価結果	事務事業の構成に関する委員の判断理由・意見				
	a 適切な構成である	<ul style="list-style-type: none"> ・主な事業が目標達成されている。 ・最近の災害を教訓にして、弱者に対してのケアもよく考えられている。 				
		各委員の評価結果				
		委員	委員	委員	委員	委員
	b 概ね妥当である	b 概ね妥当である	a 適切な構成である	a 適切な構成である	a 適切な構成である	
市民意識の反映 ：A～C	第1分科会の 評価結果	市民意識の反映に関する委員の判断理由・意見				
	A 反映されている	<ul style="list-style-type: none"> ・満足度も比較的高く、ニーズを充足している。 ・市民の防災に対する意識は大変高い。その高い意識を、日常生活の中で危機管理意識として、どう維持するかが課題になってくる。 ・市民の重要度が高いことから、訓練にも積極的に参加していると考ええる。次世代への情報共有などを問題としており、市民の防災に対する意識は高いと思われる。 				
		各委員の評価結果				
		委員	委員	委員	委員	委員
	A 反映されている	A 反映されている	B 概ね反映されている	A 反映されている	A 反映されている	
課題の捉え方 ：A～C	第1分科会の 評価結果	課題の捉え方に関する委員の判断理由・意見				
	B 課題の捉え方に一部 不足が見られる	<ul style="list-style-type: none"> ・自主防災リーダーの養成が望まれるが、若い人の意識変化やライフスタイルの変化があり、新しい取組を検討していく必要があるのではないか。 ・地域防災力の強化、避難手段の確立、防災リーダーの養成を継続して実施することが必要だと思ふ。 ・市民の防災活動を推進するとともに、地域防災力を高めることが必要である。 ・要援護者対策として、災害時に必要な能力を持った人を育成することが重要になってくる。 				
		各委員の評価結果				
		委員	委員	委員	委員	委員
	A 課題の捉え方が 的確である	A 課題の捉え方が 的確である	B 課題の捉え方に一部 不足が見られる	A 課題の捉え方が 的確である	B 課題の捉え方に一部 不足が見られる	
施策の方向性 ：A～D	第1分科会の 評価結果	施策の方向性に関する委員の判断理由・意見				
	B 継続実施	<ul style="list-style-type: none"> ・自治会に参加していない人などに対しても、防災に対する意識を啓発をしていく必要があるのではないか。 ・防災訓練の継続実施が必要だと思ふ。また、避難所の開設・運営、情報伝達手段の確保も重要である。 ・地域防災の強化と高齢者や障害者等への配慮が組み込まれていて、方向性としては良いと思ふ。 ・自治会だけに頼らない「自助力」「共助力」を高めることが必要であると思ふ。 				
		各委員の評価結果				
		委員	委員	委員	委員	委員
	B 継続実施	B 継続実施	B 継続実施	B 継続実施	B 継続実施	

(1) 施策の外部評価の結果 【第4回】

基本政策	災害に強い安全なまちづくり
施策展開の方向	災害から市民の命を守るまちをつくる
施策	14：いざという時の危機対応力の強化
目標とする状態	●いざという時に適切な対応が可能な体制や十分な備えが整い、市民が安心して日常生活を送っています。

施策の達成状況 ：A～D	第1分科会の 評価結果	施策の達成状況に関する各委員の判断理由・意見				
	B 計画どおりの成果 が得られている	<ul style="list-style-type: none"> ・施策の目標値を達成している。 ・災害時の協定数は目標値に達する見込みであるとともに、備蓄率も目標値を上回る見込みである。 ・災害時協力協定の締結が順調に進んでいる。 				
		各委員の評価結果				
		委員	委員	委員	委員	委員
	B 計画どおりの成果 が得られている	B 計画どおりの成果 が得られている	B 計画どおりの成果 が得られている	B 計画どおりの成果 が得られている	B 計画どおりの成果 が得られている	
計画事業の構成 に関する評価 ：a～c	第1分科会の 評価結果	事務事業の構成に関する委員の判断理由・意見				
	b 概ね妥当である	<ul style="list-style-type: none"> ・施策を構成する主な事業は、ほぼ目標達成の状況にある。 ・まだ目標達成に行き着かない事業もあるが、事業構成とすると概ね妥当と考える。 				
		各委員の評価結果				
		委員	委員	委員	委員	委員
	b 概ね妥当である	b 概ね妥当である	b 概ね妥当である	b 概ね妥当である	b 概ね妥当である	
市民意識の反映 ：A～C	第1分科会の 評価結果	市民意識の反映に関する委員の判断理由・意見				
	A 反映されている	<ul style="list-style-type: none"> ・市民の満足度が高く、ニーズが充足されている。 ・情報伝達手段として、市政情報の多重化を推進してきているが、市民意見等に防災行政無線の放送が聞こえないという意見が多い。家屋の作りが変わってきていることもあるが、引き続きの課題である。 ・満足度は平均以上であり、重要度も高い。 ・防災放送のあり方など市民意見として出ているが、市民意識は反映していると考えられる。 				
		各委員の評価結果				
		委員	委員	委員	委員	委員
	A 反映されている	A 反映されている	A 反映されている	B 概ね反映されている	A 反映されている	
課題の捉え方 ：A～C	第1分科会の 評価結果	課題の捉え方に関する委員の判断理由・意見				
	A 課題の捉え方が 的確である	<ul style="list-style-type: none"> ・行政が観光地施策を進める中で、これから外国人観光客の増加も予測されるため、災害時に向けた外国人のボランティア登録の検討も必要であると思う。 ・新たな被害想定を基準にした公的備蓄確保の検討、災害時における情報伝達手段の確保が必要だと思う。 ・「自助」「共助」「公助」の連携、防災公園の整備、情報伝達の多重化などが課題であり、実現に向けて努力してほしい。 ・災害対策本部の迅速な情報収集と把握、正確な情報提供と災害時の機動力を高めることが重要である。 				
		各委員の評価結果				
		委員	委員	委員	委員	委員
	A 課題の捉え方が 的確である	A 課題の捉え方が 的確である	A 課題の捉え方が 的確である	A 課題の捉え方が 的確である	A 課題の捉え方が 的確である	
施策の方向性 ：A～D	第1分科会の 評価結果	施策の方向性に関する委員の判断理由・意見				
	A 拡大して実施	<ul style="list-style-type: none"> ・学校については、地域とどのように連携していくべきか、学生達の安全確保も含め、連携に対する周知や市と大学との連携の強化を行っていく必要があると思う。 ・資機材備蓄について、各自主防災会に自家発電機を配布することも検討していく必要があると思う。 ・緊急対策活動拠点への無線設備等の整備、防災活動拠点となる公園に対する防災機能の付加について考えていく必要があると思う。 ・企業や大学との連携も大切で推し進めてほしいが、地域力の育成や、教育機関等の連携も考えていってほしい。 ・多種多様な災害の想定、拠点整備、情報提供のあり方の検討が必要だと思う。 				
		各委員の評価結果				
		委員	委員	委員	委員	委員
	A 拡大して実施	B 継続実施	A 拡大して実施	B 継続実施	A 拡大して実施	